

各関係機関長 殿
病害虫防除員

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病害虫防除所長
(公印省略)

平成24年度農作物病害虫発生予察情報について

平成24年度農作物病害虫発生予報及び月報を発表したので送付します。

平成24年度農作物病害虫発生予報第1号

平成24年5月1日
徳島県

I. 普通作物

早期水稻

イネミズゾウムシ

1) 予報内容

発生時期 平年よりやや遅い(前年並)
発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 4月後半の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が15.3%、本田生息虫数が0.3頭)。
- (2) 4月27日発表の1ヶ月予報では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い見込みであり、気温は平年より高い、降水量は平年並、日照時間は平年並と見込まれており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生状況に注意し、育苗箱施用を行っていない圃場において成虫が多発した場合には、薬剤を水面施用する。
- (2) 根腐れしやすい水田では幼虫被害が助長されるので、深水を避け、根を健全に保つ。

II. 果樹

果樹共通

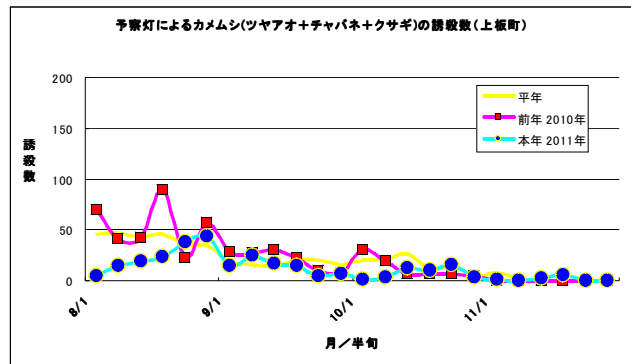
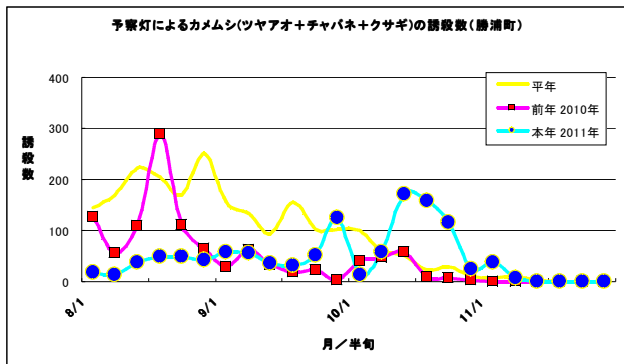
果樹カメムシ類

1) 予報内容

発生時期 平年並
発生量 平年よりやや多く(前年より多い)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 昨年夏～秋期における上板町の予察灯誘殺数は平年並で推移したが、勝浦町は10月以降平年より高めで推移した。



(2) 2月に実施したチャバネアオカメムシの越冬調査(11地点×2ヶ所調査)では、3地点で越冬を確認、越冬成虫は0.5頭/m²であった。一昨年(11地点×2ヶ所の調査では2地点で越冬を確認、越冬成虫数は0.09頭/m²)、昨年(越冬虫を認めず)と比べて越冬密度が高い。

(3) 今春の予察灯調査において、上板町では平年(4月26日)より3日早い、4月23日にチャバネアオカメムシの初誘殺を確認した。

(4) 4月27日発表の1ヶ月予報では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い見込みであり、気温は平年より高い、降水量は平年並、日照時間は平年並と見込まれており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 果樹園周辺の雑木林から成虫が飛来するので、園内を巡回し飛来に注意するとともに、飛来を認めたら早急に防除を行なう。

(2) 夜行性の虫なので、薬剤の散布は夕方か早朝に実施する。

(3) 移動性が大きいので、広域一斉防除により防除効果の向上に努める。

Ⅲ. 野菜

夏ネギ

さび病

1) 予報内容

発生時期 平年よりやや遅い

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 4月後半の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が12.8%、発病株率が0.9%)。

(2) 4月27日発表の1ヶ月予報では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い見込みであり、気温は平年より高い、降水量は平年並、日照時間は平年並と見込まれており、やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 肥料切れすると発生が多くなるので、適切な肥培管理に努める。

(2) 葉全体に発生が見られてから薬剤散布を行なってもほとんど効果は見られないので、発生前または発生極初期から、定期的に薬剤を散布して予防する。

(3) 罹病葉を圃場に放置すると伝染源となるので、速やかに圃場外で処分し、病原菌密度の低下に努める。

ネギアザミウマ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 4月後半の巡回調査では、発生圃場率が33.3%、葉の被害度が0.3であり、平年(27.1%、1.1)並の発生である。

(2) 4月27日発表の1ヶ月予報では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い見込みで

あり、気温は平年より高い、降水量は平年並、日照時間は平年並と見込まれており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。
- (2) 被害葉は発生源となるので、圃場周辺に放置せず、速やかに処分する。

ネギハモグリバエ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 4月後半の巡回調査では、発生圃場率が100%、葉の被害度が3.9であり、ほぼ平年(80.6%, 4.8)並の発生である。
- (2) 圃場において成虫の発生が確認されている。
- (3) 4月27日発表の1ヶ月予報では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い見込みであり、気温は平年より高い、降水量は平年並、日照時間は平年並と見込まれており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 播種時又は定植時に粒剤を土壌処理し、被害発現を遅らせる。
- (2) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。
- (3) 被害葉は有力な発生源となるので、絶対に圃場周辺に野積み・放置せず、速やかに処分する。
- (4) 春から夏にかけて発生が多く、特に5～6月が少雨の年に多発し、残暑が続くと秋口にも発生が多くなる。

IV. その他

- 1) 薬剤の使用に当たっては必ず使用基準を遵守し、周辺作物等へ飛散しないようにして下さい。
- 2) 水田に薬剤を使用したときは、7日間以上止水して下さい。

発生量の表示

発生程度：甚>多>中>少>無

発生量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所
U R L : <http://www.pref.tokushima.jp/tafftsc/boujosyo/>

○ 病害虫の発生予察情報、発生状況、防除法等をお知らせしています。